

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学Ⅲ	2	選択履修	R6・3	理系
使用教科書	深進数学Ⅲ (啓林館)				
副教材	マスグレードα数学Ⅲ				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画(单元ごとの評価規準)

学期	月	単元(学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿勢
1学期	4月	微分法 第2節 いろいろな関数の導関数	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数の導関数について理解している。 いろいろな関数の導関数や、高次導関数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【探究3】対数微分法の意味や使い方について考察することができる。 【探究4】導関数を用いて関数の極限を求める方法について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【探究3】対数微分法を用いて、いろいろな関数の導関数を考えようとする。 【探究4】ロピタルの定理について考察しようとする。

	5月	第3節 導関数の応用	<ul style="list-style-type: none"> 導関数の符号と関数の増減の関係を理解している。 第2次導関数とグラフとの関係を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 導関数を利用して、関数の増減を考察することができる。 第2次導関数を利用して、グラフの概形を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導関数を利用して、極値や関数の増減を考察しようとする。
	6月	第4節 いろいろな応用	<ul style="list-style-type: none"> 関数の最大値や最小値を求めることや、不等式の証明、方程式の実数解を求めることに微分を利用できることを理解している。 点の運動と微分の関係を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【探究5】多項式関数や指数関数の発散するスピードの違いについて考察することができる。 微分を用いて、直線上や平面上の点の動きを調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【探究5】不等式を利用していろいろな関数の極限を考察しようとする。 微分を用いて、直線上や平面上での点の動きについて調べようとする。
	7月	積分法 第1節 不定積分	<ul style="list-style-type: none"> 微分法と積分法の間係を理解している。 合成関数の微分法と置換積分法、積の微分法と部分積分法の間係を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 合成関数の微分法や積の微分法について理解し、置換積分法や部分積分法について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分を求める際に、置換積分法、部分積分法を活用しようとする。
2 学期	9月	第2節 定積分	<ul style="list-style-type: none"> 定積分や区分求積法の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 区分求積の考え方から、図形の面積と不定積分の間係を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数について、その定積分を考えようとする。
	10月	第3節 積分法の応用	<ul style="list-style-type: none"> 定積分と面積、体積、曲線の長さの間係を理解している。 点の運動と積分の間係を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 積分を用いて、直線上や平面上の点の動く道りを調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件を満たす点全体から立体の体積について考察しようとする。
	11月				
	12月				
3 学期	1月				
	2月				
	3月				

5. 教科担当者より

数学の学習はとにかく自分の頭で考えて書いていくことが大切です。黒板の内容をただ写すだけでは理解はできず、当然テストでも思うような良い点は取れません。予習→授業→復習のサイクルを今一度しっかり確立させ、家庭学習も含めて毎日コツコツと学習して行って下さい。もし、どうしても分からない所があったら、先生や友達に聞くなどして必ず解決して下さい。分からないことを分かるようになることが勉強です。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	総合数学 I	2	選択履修	R6・3	理系
使用教科書	総合数学 I				
副教材	マスグレードα 数学II マスグレードα 数学B+C 類比方式による数学 I +A 攻略! 共通テスト Pick Up128 数学 I II ABC (東京書籍)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
<p>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身に付ける。</p>	<p>数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・次に行われる授業の分野を予習する。 ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 ・单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 ・言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。
--

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。</p>	<p>数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見だし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月	・方程式・不等式 ・2次関数・図形と計量 ・データの分析	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	7月	・場合の数と確率 ・図形の性質・整数の性質 ・複素数と方程式 ・図形と方程式	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
2 学期	9月	・三角関数 ・指数関数と対数関数 ・微分積分 ・数列・ベクトル	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	10月	・方程式・不等式 ・2次関数・図形と計量 ・データの分析	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	11月	・場合の数と確率 ・図形の性質・整数の性質 ・複素数と方程式 ・図形と方程式	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	12月	・三角関数 ・指数関数と対数関数 ・微分積分・数列・ベクトル	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
3 学期	1月	総合演習1	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	2月	総合演習2	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	総合数学 I	2	選択履修	R6・3	文系
使用教科書	総合数学 I				
副教材	マスグレードα数学II マスグレードα数学B+C 類比方式による数学I+A 攻略! 共通テストPick Up128 数学I II ABC (東京書籍)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身につける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。	数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見だし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月	1回目の復習 ・方程式・不等式 ・2次関数・図形と計量 ・データの分析	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	5月	・場合の数と確率 ・図形の性質・整数の性質 ・複素数と方程式 ・図形と方程式	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を 導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	6月	・三角関数 ・指数関数と対数関数 ・微分積分 ・数列・ベクトル	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	7月	2回目の復習 ・方程式・不等式 ・2次関数・図形と計量 ・データの分析	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
2 学期	9月	・場合の数と確率 ・図形の性質・整数の性質 ・複素数と方程式 ・図形と方程式	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	10月	・三角関数 ・指数関数と対数関数 ・微分積分・数列・ベクトル	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	11月	総合演習1	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	12月	総合演習2	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
3 学期	1月	総合演習3	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	2月	大学入試対策	・各分野における 公式や定理を理 解して使えるよ うになる。	・問題の本質を見 極め、問題解決 のための解法を導 けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	総合数学Ⅱ	3	選択履修	R6・3	理系
使用教科書	総合数学Ⅱ				
副教材	マスグレードα数学Ⅱ マスグレードα数学B+C 類比方式による数学Ⅰ+A 攻略！共通テストPick Up128 数学ⅠⅡABC（東京書籍）				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身に付ける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・次に行われる授業の分野を予習する。 ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 ・単元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 ・言葉、数式、グラフ（図）を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。
--

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。	数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見だし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
	8月	1回目の復習 ・方程式・不等式 ・2次関数 ・図形と計量 ・データの分析	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
2 学期	9月	・場合の数と確率 ・図形の性質 ・整数の性質 ・複素数と方程式	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
	10月	・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数と対数関数	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
	11月	・微分積分 ・数列 ・ベクトル	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
	12月	共通テスト対策	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
3 学期	1月	2次試験・私大対策	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
	2月	大学入試対策	・各分野における公式や定理を理解して使えるようになる。	・問題の本質を見極め、問題解決のための解法を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展問題や大学入試過去問等に取り組む姿勢を見せる。
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	総合数学Ⅱ	4	選択履修	R6・3	文系
使用教科書	総合数学Ⅱ				
副教材	マスグレードα数学Ⅱ マスグレードα数学B+C 類比方式による数学Ⅰ+A 攻略! 共通テストPick Up128 数学ⅠⅡABC (東京書籍)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身につける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 単元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。	数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見いだし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月	1回目の復習 三角関数（三角比 を含む）	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	5月	指数・対数関数 図形と方程式 ベクトル（	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	6月	数列 微分と積分	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	7月	2回目の復習 三角関数（三角比 を含む）	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	8月	指数関数・対数関 数	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
2 学期	9月	図形と方程式 ベクトル（平面図 形を含む）	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	10月	数列 微分と積分	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	11月	総合演習1	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	12月	総合演習2	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
3 学期	1月	総合演習3	・各分野における公式 や定理を理解して使え ようになる。	・問題の本質を見極め、 問題解決のための解法 を導けるようになる。	・予習復習を行い、発展 問題や大学入試過去問 等に取り組む姿勢を見 せる。
	2月	大学入試対策	・各分野における公 式や定理を理解して使 えるようになる。	・問題の本質を見極 め、問題解決のため の解法を導けるよう になる。	・予習復習を行い、発 展問題や大学入試過 去問等に取り組む姿 勢を見せる。
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。